

Formula NIPPON NEWS 2010.03.09  
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン  
第1回公式合同テスト2日目 [鈴鹿サーキット]

## 雨中の公式テストではロッテラーがトップタイム 昨日トップの小暮が2番手、塚越は連日の3番手に!!

3月9日、鈴鹿サーキットで行われた2010年の第1回フォーミュラ・ニッポン公式合同テストの2日目（最終日）は、冷たい雨が降り続く1日となった。そのコンディションの中、セッションは予定通り午前10時~12時、午後2時~4時の4時間行なわれ、最終的にはNo.36 アンドレ・ロッテラー（PETRONAS TEAM TOM'S）がトップタイムをマーク。これに、No.32 小暮卓史（NAKAJIMA RACING）、No.10 塚越広大（HFDP RACING）が続いている。

9日（火）未明から、冬に逆戻りしたような冷たい雨が降り始めた鈴鹿。この雨は、終日止むことなく降り続き、路面も完全ウエットコンディションとなった。1回目のセッションは午前10時、気温7度、路面温度8度。この時点では、雨は小康状態で、ほとんど落ちていなかった。そのため、走り始めからすぐに、各ドライバーが2分を切るタイムで周回し始める。特に、セッション開始から約30分という時点では、昨日トップタイムをマークしている小暮が1分54秒466までタイムを伸ばし、一時トップに立った。しかし、それから15分後、小暮のトップタイムをロッテラーが更新。雨の速さに定評があるロッテラーは、1分54秒262を出して、トップに立っている。同じ頃、小暮も54秒台での周回を重ねていたが、ロッテラーにはわずかに及ばなかった。セッションの後半に入ると雨脚が強まり、コース上に複数の川や水溜りができている状況に。ストレートでもアクアプレーニングが起きる状態となり、多くのマシンはピットで待機することとなる。その後も雨は強く降り続き、前半にロッテラーが出したタイムを上回るドライバーはいなかった。

午後のセッションは、予定通り午後2時に開始。コースがオープンされると、No.29 井口卓人（DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING）、No.18 平中克幸（KCMG）がすぐにコースイン。これに続いてNo.7 ケイ・コッツォリーノ（Team LeMans）、大嶋和也（PETRONAS TEAM TOM'S）らもコースに入っている。その中で、いきなり2分を切ってきたのは、午前中を慣熟走行に当てていた平中。平中は1分58秒694をマーク、これが他のドライバーにとっても雨の目安となった。そして、開始から約20分という時点で、ロッテラーやNo.19 ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ（TEAM IMPUL）、No.8 石浦宏明（Team LeMans）ら、他のドライバーたちが平中のタイムを上回ってくる。

開始から40分過ぎには、塚越がコースに入り、ベストタイムを連発。計測6周目に1分56秒232をマークして一時トップに立った。その約10分後には、いよいよトップタイムが55秒台に突入。オリベイラが1分55秒788をマークする。また、その他のドライバーもジワジワと自己ベストを更新していった。そして、セッションが残り約35分となったところで、塚越が再び午後のトップタイムを書き換える1分55秒281をマーク。オリベイラのタイムを一気にコンマ5秒上回ってみせた。残り時間が25分となったところで、小暮がダンロップコーナーでコースアウト。このため走行は一時中断。マシン回収が終わり、残り時間が約17分でセッションが再開し、コースが再びオープンされると、石浦、No.16 井出有治（MOTUL TEAM 無限）、井口らがコースへと入る。そして、残り時間が10分を切ったところから、石浦が連続して自己ベストを更新。計測25周目には、1分55秒524と、午後のセッションでは2番手となるタイムをマークした。その後、大きくタイムを伸ばしたドライバーはおらず、ここでセッションは終了。午後は、塚越、石浦、オリベイラというトップ3になっている。

あいにくの雨となったテスト2日目だが、昨年の第2戦鈴鹿も雨。そして、今日のトップタイムはその時の予選、決勝の最速タイムより明らかに速い。もちろんコンディションがまったく同じではないため単純な比較は出来ない。だが、昨日のドライでも何台もがコースレコードを更新するタイムを記録しており、1年を経てFN09の熟成がしっかりと進み、ドライバーたちもFN09をモノにしているということになる。それだけに開幕戦

**Formula NIPPON NEWS 2010.03.09**  
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン  
第1回公式合同テスト2日目 [鈴鹿サーキット]

鈴鹿 (4/17、18) は、昨年を超えたレベルでの戦いとなり、今から非常に楽しみだ。

なお、この午後のセッション、DOCOMO TEAM DANDELION RACING のNo.1 リチャード・ライアンとNo.2 伊沢拓也はレインコンディションでのテストメニューを終了していたということで出走しなかった。なお、同チームのNo.1のレギュラードライバーであるロイック・デュバルは都合により欠席したため、このテストに限りライアンがドライブすることになった。昨年、NAKAJIMA RACING でチャンピオンを獲得し、DOCOMO TEAM DANDELION RACING へ電撃移籍したデュバルはこの後のテストには参加し、2年連続のチャンピオンに挑むことになる。

この公式テストにはトヨタエンジンの開発車両として1台が参加。立川祐路がドライブした。トヨタは、昨年ホンダエンジンにタイトルを奪われただけに、タイトル奪還を期してのテストといえよう。

## トップ3 ドライバーのコメント

### 総合1位

#### No.36 アンドレ・ロツテラー (PETRONAS TEAM TOM'S)

今日はウエットコンディションのテストというか…。リヤの一部にちょっとした変更をして、あとはただドライブしただけだよ。でも、テスト結果に関してはハッキリしない。タイヤの効果の方が大きいと思うから。どういうセットアップで走ったかとか、そういうことは余り関係ないような感じだね。確かに、僕は色々試した。それはデータを集めるという意味では良かったよ。トップで終えられたのは自信にもなるし、クルマがちゃんと走ってくれているということも分かるし、良かった。できれば、昨日、もう少しいい結果で終えられていればもっと良かったんだけどね。

### 総合2位

#### No.32 小暮卓史 (NAKAJIMA RACING)

午前中は、雨のセットの確認と、リヤのサスペンションのセットアップを少しやっただけですね。そんなに走っていないんですけど、タイムも良かったですし、雨が強くなってきても僕は54秒台で走っていたので、そんなには悲観していません。ちょっとクルマはオーバーっぽくて乗りづらかったんですけどね。でも全体的な印象は悪くありません。午後は走る予定がなかったんですけど、少し走ろうかなと思って出ました。でも、午前フラットスポットを作ったタイヤで、カタカタしてたんですよ。それで、すぐにニュータイヤに変えたんです。それで温めていたんですけど、タイヤのウォームアップが良くなかったですし、車高も低めにしに行っていたので、ハイドロに乗ってコースアウトしてしまいました。反省しています。

### 総合3位

#### 塚越広大 (HFDP RACING)

昨日ドライで走って、その延長で雨の中ではどうかを確認しました。そんなに大きなことはやっていなくて、微調整というか、これはどう反応するかとか、そういうことを色々やっていました。午後はトップタイムでしたが、雨の量が多くて走っていないチームもあったので、喜べる物じゃないですよ。あとは多少タイヤの(溝)作りも少しやりました。午後は全体的に雨も水溜りも多かったんですけど、その中でも多少弱まってきた時に上手く走れたと思いますし、クルマの調子も良かったので、タイムが出せたんじゃないかなと思いますね。富士では、ダウンフォースとかも全然違ってきますが、ハイダウンフォースの鈴鹿を元に、富士に持っていったらどうなるか、そういう確認作業に時間を費やすことになると思います。自分の走りに関しては、雨の中でもまだまだ自分で詰め切れていない部分があるので、そういう部分もがんばらないといけないなと思います。

Formula NIPPON NEWS 2010.03.09  
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン  
第1回公式合同テスト2日目 [鈴鹿サーキット]

## ルーキードライバーのコメント

今シーズン初めてフォーミュラ・ニッポンにチャレンジする若手選手3人に話を聞いた。No. 32 山本尚貴は初日1回目の走行では3番手を奪うなど実力の片鱗を見せ、No. 7 ケイ・コッツォリーノ、No. 29 井口卓人もFN09を自分のものにすべくきっちり走行し、開幕戦に向け、手応えを感じているようだ。

### No. 31 山本尚貴 (NAKAJIMA RACING)

楽しかった。すごく楽しかったです。FNはやっぱスピードも速いですし。スピード域がGTともF3とも違うので、最初は目がついていかなかったんですけど、すぐに慣れることもできました。体力的にもあまり気になりませんね。問題がないわけではありませんが、HFDPの時から“トレーニングをしておけ”ということはずっと言われていましたし、プログラムもずっと組まれていましたから。やっておいて良かったなと思いました。

初日は、タイムとか順位は気にせず、自分の好きなように走らせて貰いました。6番手でしたが、やっぱりドライバーとしてはやはり1番で終わりたいという気持ちは強い。でも、今日はそういう日じゃないと自分で自分に言い聞かせて。それよりも開幕戦でどれだけ前にいられるか、どうやったら勝てるかというのが、今は一番重要だと思うので。新人の中で1番とかも気にしていません。チャンピオンチームのマシンに乗っているので、前にいるのは当然だと思っていますし。まだ小暮さんに比べて、イケていない部分があります。これからその辺を修正して、レースまでに上手く調整できればいいな、と。でも、手応えはすごく感じましたし、今年1年、楽しみだなんて思っています。

### No. 7 ケイ・コッツォリーノ (Team LeMans)

初日は初のドライだったんで、最初は目が付いていきませんでした。それに、ちょっと気持ちがビビったりして、ちょっと手前、手前になってしまいました。でも、ステップ・バイ・ステップで徐々にタイムも良くなってきたと思います。少しずつリズムも掴めてきていますね。ただ、石浦さんと比べていても、最終的にアタックした時、全然ダメな所はダメなので…。それに去年のF3の走り方で走ってしまっているんで、その辺はこれからフォーミュラ・ニッポンに合わせた攻め方、ドライビングに切り替えなければいけないと思いました。

とにかく初日はトレーニングが課題ということで臨みました。だから、僕の周回数が一番多い(78周)。ガソリンを積んで、3回ロングランをやって、中古タイヤで攻め込んでいきました。でも、本当に攻めて行くと、3周ぐらいで腕が…本当に、ハンドルが固定しちゃうようなレベルなんです。でも、このクルマに乗るのは、楽しかったです。ただ、トップと1.5秒も差があって、めっちゃ悔しかった。これじゃ本当にダメですよ。

### No. 29 井口卓人 (DELIZEFOLLIE/CERUMO・INGING)

いや～、もう。単純にパワーがあって、グリップもすごく高く驚いています。最初は慣れませんでした。まだタイム的にも僕は遅いので、体力的には今のところ大丈夫。でも、ペースを上げていくと、2コーナーでハンドルが切れなかったりするので、やっぱりかなりハードだと思います。タフです。(今日の午前中コースアウトしましたが)スピンするスピードに、自分がカウンターを当てるスピードが全く追いつかなくて。“アツ”と思った瞬間にスピンしていました。

(トップタイムから4秒遅れなので)もう全部足りない。とにかくもっと行かないといけないんですけど、ちょっとビビリも入って。身体も、首は1日走り終えて、ちょっと硬くなりました。F1もすごいんですけど、それでもフォーミュラ・ニッポンでレースをしている人たちも、本当にすごい。多分F1に乗っても簡単に乗れちゃうんだと思いますね。FCJやF3とは違い過ぎます。パワーもステアリングの重さも…。

Formula NIPPON NEWS 2010.03.09  
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン  
第1回公式合同テスト2日目 [鈴鹿サーキット]

## 復帰ドライバーのコメント

今シーズンはフォーミュラ・ニッポンに復帰する選手も3人いる。キャリアと実力を持った3選手に久々のフォーミュラ・ニッポンの感想を聞いた。

### No.16 井出有治 (MOTUL TEAM 無限)

今回はクルマが全然曲がらなくて、タイム的にもあんな風(1日目13番手、2日目13番手)になっちゃいましたけど、身体は全然問題なかったです。若いドライバーの方が、身体ができていないから、体力がないんじゃないですか? クルマの方は、初日の走り始めから上手くフロントが入らない症状があったので、それを直そうとあれこれやっていたんですけど、ちょっと根本的な解決にはならなかったの。去年の夏に乗った時とまたフィーリングが違うので、困っているんですよ。スピードとかそういうことに対しては、違和感なかったですね。久しぶりに乗ったとか、そういう感じも特になかったです。でも、タイム的にはキツかったですね。それぐらい曲がらなかったので、こういう結果でもおかしくないですけど。でも、今回は良くも悪くも、色々データが取れたので良かったと思いますね。

### No.18 平中克幸 (KCMG)

このクルマ自体初めてで、初日の午前中はリハビリというにふさわしい感じの走りでしたし、Gとか直線の速さとか、結構大変でした。去年1年フォーミュラに乗っていなかったですし、乗っていたクルマが速度域的に低かったの…だから、すごく速く感じましたね。ただ、午後になってからは少し慣れてきて、セッティングとかもちょっと触り始めました。タイムも、自分の中で、どれぐらい上がって行くかというのが見えたので、すごく貴重な1日になりました。(首や腕がきついというのは) ちょっとありましたね。本当に今のフォーミュラ・ニッポンは、ポンと来てすぐ勝てるかっていったらそうではないですし、すごくスポーツというにふさわしい。クルマの動きもそうだし、速度もそうだし、身体に掛かる負担というのは、本当にアスリートじゃないと運転できないかなと…。トレーニングも自分なりにはやっていたんですけど、乗らないと分からないってところもありますよね。やっぱり開幕に向けてしっかりやらないと、これはマズいって…。身体がとか、腕がとか、首がとか…。そういうのでタイムが出ないというのは、ドライバーとして絶対にあってはいけないことだと思うので、その辺はしっかりやって開幕に臨みたいです。

### No.19 ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ (TEAM IMPUL)

1年半ぶりにドライコンディションでフォーミュラ・ニッポンに乗ったわけだけど、実際すごくハードだった。特に、こんなにグリップすると。初日のタイムはレコードタイムだったと思うし、本当に速いよ。でも、実り多い1日だったと思う。セットアップをいくつか試すことができたし、クルマのことについていくつかのことを理解することができた。今の段階でも、あとコンマ3~4秒ぐらいは上げることができると確信しているよ。だから、トップ5までのグループには行けると思う。肉体的にもハードだったね。本当にステアリングが重い。僕は首が強いので、首に関しては全く問題なかったけど、特に鈴鹿だから、ステアリング操作が大変なんだと思う。ステアリングを切ったまま、アクセルを踏んでいくコーナーが多いからね。あと、僕みたいに戻ってくると、もう一度順応するのに、少し時間が掛かるんだ。だから、すぐトップに行くのは簡単じゃない。でも、長年このレースに出ている人たちと走る時には、常にもっと学ばなければいけない。とは言うものの、今回のテストを通じて自分自身も進歩できたし、ハッピーだよ。

Formula NIPPON NEWS 2010.03.09  
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン  
第1回公式合同テスト2日目 [鈴鹿サーキット]

## 第1回公式合同テスト 2日目ラップタイム

鈴鹿サーキット 5.807km

天候：雨 コース：ウエット

Po	No	Name	Team	Best Time	Session 1	Session 2
1	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM'S /T	1' 54.262	*1' 54.262	1' 56.878
2	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING /H	1' 54.466	*1' 54.466	1' 56.224
3	10	塚越 広大	HFDP RACING /H	1' 55.281	1' 55.300	*1' 55.281
4	1	リチャード・ライアン(*)	DOCOMO TEAM DANDELION RACING /H	1' 55.282	*1' 55.282	—
5	19	J.P.デ・オリベイラ	TEAM IMPUL /T	1' 55.311	*1' 55.311	1' 55.788
6	8	石浦 宏明	Team LeMans /T	1' 55.362	*1' 55.362	1' 56.524
7	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM'S /T	1' 55.453	*1' 55.453	1' 56.622
8	20	平手 晃平	TEAM IMPUL /T	1' 56.078	1' 56.078	*1' 56.078
9	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans /T	1' 56.384	*1' 56.384	1' 56.743
10	2	伊沢 拓也	DOCOMO TEAM DANDELION RACING /H	1' 56.571	*1' 56.571	—
11	29	井口卓人	DELIZEFOLLIE/CERUMO・INGING /T	1' 56.766	*1' 56.766	1' 58.329
12	31	山本尚貴	NAKAJIMA RACING /H	1' 56.919	*1' 56.919	1' 59.993
13	16	井出有治	MOTUL TEAM 無限/H	1' 57.498	*1' 57.498	1' 58.393
14	18	平中克幸	KCMG /T	1' 58.082	1' 58.082	*1' 58.082

\*:タイムの前の”\*”はベストタイム。 チーム名の後の略称はエンジン、H：ホンダ、T：トヨタ。

\*:No.1はレギュラーのロイック・デュバルが欠席のため、R.ライアンが代理出走した。